

調査体制

第8次調査

調査期間 平成29年8月6日～21日、8月27日～9月7日 9月16日～18日

調査主体 東北学院大学文学部歴史学科考古学専攻辻ゼミナール

調査担当 東北学院大学文学部 教授 辻 秀人

調査員 佐藤由浩（大学院博士課程前期2年）

相川ひとみ（大学院博士課程前期2年）

鈴木舞香（大学院博士課程前期1年）

平大貴・酒井瞳・鈴木千賀・結城智・清野寛仁・岡本莉奈・斎藤千晶

窪田磨実・佐伯鉄太郎・高橋多津美・横山舞（4年）

安部喜俊・加藤雄大・大渡魁人・賀屋由布・佐藤洸希・佐藤貞衡・高橋累

高橋伶奈（3年）

大村祥平・斎藤貴哉・高橋梨佳子・上野佳菜・鈴木千晶・千代谷風花

平林真弘・小池和香・佐藤里佳子・雫石千尋（2年）

吉村菜々子（1年）

調査指導 奈良貴史（新潟医療福祉大学教授）

調査協力 喜多方市教育委員会

植村泰徳・渡辺展好（喜多方市教育委員会）片岡洋（喜多方市）

山中雄志（磐梯町）

小汲康浩（新宮区区長）・田部成彦・上野正典・後藤直人・田部文市・渡辺和男

株式会社ふたば

近輝夫・近ノリ子（敬称略）

土地所有者 新宮区

調査の目的

東北学院大学辻ゼミナールは、東北地方古墳時代の様相を解明するために活動しています。今回調査をしました灰塚山古墳は会津盆地北部、喜多方市西方の丘陵上に築かれた前方後円墳です。会津盆地西側に分布する宇内青津古墳群の最北に位置する大型前方後円墳

です。喜多方市内では最大の古墳で、会津盆地内でも5番目の規模を誇ります。

これまで、灰塚山古墳は規模の大きさに加えて、他の大規模古墳に比べて前方部が高いことなどの特徴が注目されてきました。また、近くにある古墳時代中期の

豪族の館、国指定史跡古屋敷遺跡との関係も問題にされてきました。私どもは、

このような状況を踏まえ、会津盆地の古墳時代を解明するために灰塚山古墳の調査を実施することにしました。

